資料３

２０２３年度「あいち食育いきいきプラン２０２５」の主要な取組

１　食を通じて健康な体をつくるための取組

・栄養バランスの良い朝食摂取に向けた取組（保健体育課）　・・・・・・・・・・・・１
・野菜の摂取量向上の取組（健康対策課）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２　食を通じて豊かな心を育むための取組

・農林漁業体験学習推進支援への取組（保健体育課）　・・・・・・・・・・・・・・・３
・農林水産業への理解と地産地消の推進への取組（農政課）　・・・・・・・・・・・・４

３　食を通じて環境に優しい暮らしを築くための取組

・学校給食における地域の産物の活用に向けた取組（保健体育課）　・・・・・・・・５
・地産地消の推進に向けた取組（食育消費流通課）　・・・・・・・・・・・・・・・６

４　食育を支えるための取組

・食育推進ボランティアの育成と活動の充実に向けた取組（食育消費流通課）・・・７

栄養バランスの良い朝食摂取に向けた取組

教育委員会事務局教育部保健体育課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年（2020）	現状 2021	現状 2022	目標（2025）
朝食を毎日食べる習慣がある小中学生の割合	93.2%	92.6%	90.7%	98%以上
朝食に野菜を食べている小中学生の割合	55.9%	61.9%	61.5%	80%以上

1　現状と課題

朝食を毎日食べる習慣がある小中学生の割合は、1.9 ポイント減少した。朝食の重要性を保護者へ周知する、「早寝・早起き・朝ごはん」キャンペーンをさらに推進する等、対策を強める必要がある。

朝食に野菜を食べている小中学生の割合は、2020年（基準年）より増加している。家庭での食事が見直されバランスの良い食生活を心がけていること、それを各学校が「食育だより」で推奨していること等によると思われる。今後も各学校へ働きかけていく。

朝食に野菜を食べている小中学生の割合

2　主な取組

（1）2022 年度の取組実績とその「SHIN 化」

あいちの味覚たっぷり！わが家の愛であ朝ごはんコンテストは、2022 年で 17 回目を迎えた。「地元の食材や郷土料理を取り入れた家族の愛を感じる愛であ朝ごはん」をテーマとし、栄養バランスのよい献立を募集したところ、県内の小学校・義務教育・特別支援学校（269 校）の 5、6 年生から、9,357 点の応募があった。コロナによって減少した応募数は、以前の数に戻ってきている。

朝ごはんコンテスト最優秀作
『朝活は愛知のかおりマンサイ！』

他にも、小学校における保護者向け給食試食会への食育資料の提供、「早寝・早起き・朝ごはん」キャンペーンの実施、朝ごはん啓発リーフレットの配布等を行った。また、バランスの良い朝食に関する研究事例の紹介等も、学校関係者、栄養教諭等に向けた各種研修会で行った。

【SHIN 化の内容】＝ 進化 ＝

給食試食会等において、朝ごはんの大切さや栄養バランスの良い食事の大切さについて、保護者の理解をより深めるために、県の取組を紹介する資料を提供した。

（2）2023 年度以降の取組（予定）

○あいちの味覚たっぷり！わが家の愛であ朝ごはんコンテストの実施
○保護者向け食育資料の提供、「早寝・早起き・朝ごはん」キャンペーンの実施
○学校関係者向け、食育に関する各種研修会での事例紹介

3　取組推進のための事業、体制等のイメージ図

栄養バランスの良い朝食摂取に向けた取組 → 取組内容：啓発資料の提供、調理コンテスト、各種研修会の実施 → プランの目標：毎日朝食を食べる小中学生の増加／朝食における野菜摂取率の向上

野菜の摂取量向上の取組

保健医療局健康医務部健康対策課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年(2020)	現状（2021）	→	目標（2025）
毎日野菜を３回以上食べている成人の割合	17.7%	17.5%		20%以上

※2022 年度はデータなし

1　現状と課題

毎日野菜を３回以上食べている成人の割合は、2020 年度から 2021 年度で増加していない。野菜を積極的に摂ることで、バランスのよい食事に結びつくことから、朝食を欠食しない割合の増加とともに、野菜の摂取機会を増やすことで野菜摂取量の増加を図る必要がある。

2　主な取組

（１）2022 年度の取組実績とその「SHIN 化」

県民が野菜摂取量の増加も含め、バランスの良い食事を選択できる環境づくりを関係機関と連携してモデル的に取組んだ。また、健康に配慮した食事提供等に取組む飲食提供施設等への啓発資材の提供及び栄養・食生活課題の要因を分析するための調査を実施した。

<u>モデル的な取組み</u>

〇産学官連携の自然に健康になれる食卓づくりの実施
　野菜摂取量向上のためのメニューを記念日にちなんだ食材セットとして販売　１店舗　59 セット

〇健康に配慮したメニューの取組み事例の紹介
　毎日不足する分の野菜を補うお手軽カフェランチ等３店舗

【SHIN 化の内容】＝ 進化 ＝

新型コロナウイルス感染症の影響による事業の一部中止や取組みができない保健所もあったが、既存事業との連動や関係機関・団体等との連携により、多様な展開を図ることができた。

（２）2023 年度以降の取組（予定）

食に関する施設及び関係団体等と既存事業において連携し、多様な方面からの普及啓発を行うなど、 県民が健康に配慮した食生活を自然に実践できる食環境整備を推進する。また、栄養・食生活課題の要因を分析し、より効果的な取組みの推進を図る。

3　取組推進のための事業、体制等のイメージ図

＜食の健康チャレンジプロジェクト＞

〇食環境整備　食育推進協力店登録事業と連携モデル的な取組み支援
〇普及啓発　国の事業と連動した取組み普及啓発支援
〇地域分析　栄養・食生活課題の要因分析等

→

・健康に配慮した食事提供等に取組む飲食提供施設等の増加
・県民の意識の変化

→

・朝食を欠食しない若者割合増加
・**野菜摂取量向上**
・適正体重の維持

→

健康寿命延伸

農林漁業体験学習推進支援への取組

教育委員会事務局教育部保健体育課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年（2019）	現状			目標（2025）
		2020	2021	2022	
農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合	77.8%	68.5%	69.8%	71.1%	８０%以上

１　現状と課題

農林漁業体験に取り組む小学校の割合は、2020 年にコロナ禍の影響を受け大きく落ち込んだが、2021、2022 年と増加傾向にある。地元の農家やＪＡなどを呼んで行う体験学習が増え始めており、回復しつつある農林漁業体験学習に関して、各方面の協力を得て情報発信、情報提供を今後も積極的に行っていく。

２　主な取組

（１）2022 年度の取組実績とその「SHIN 化」

保健体育課主催の学校関係者、栄養教諭等向けの各種研修会で、研究校の食育（農林漁業体験を含む）に関する事例発表を行った。

食育消費流通課作成の小学校における農林漁業体験学習の啓発チラシ「授業、クラブ・課外活動などに『農林漁業体験学習』を積極的に取り入れてください！」、「食育推進ボランティアに食育活動を依頼してみませんか！」を各学校が次年度の教育計画を立て始める１２月に小学校等に配布した。

農業体験学習

【SHIN 化の内容】＝ 進化 ＝

2021 年 12 月の愛知県教育委員会とＪＡグループ愛知との相互連携に関する協定締結以降、農業体験の推進は一層行いやすい環境となった。また水産課より、７月にパンフレット「愛知県の水産業」、下敷き「愛知県の主要な水産物」を、小学校等の５年生に配布している。水産業への理解を深めるとともに、漁業者による学校向け体験活動の情報提供を行っている。

一方で、「大治と愛知の魅力を感じる学校給食の日」や「碧南にんじんの日」の設定等、愛知を食べる学校給食の日を機に、各市町村独自の地産地消の推進も行われている。

（２）2023 年度以降の取組（予定）

○2023年から、ＪＡあいち中央会が主催する「あいち食農教育表彰」がスタートする。「食と農で未来をつくる!!」をキャッチフレーズに、農業体験、農業施設見学、地域農業学習等を推進する取組をＪＡあいち中央会と連携して実施

○各種研修会における研究校の農林漁業体験に関する事例発表

○各課（食育消費流通課、水産課等）の体験学習に関する情報提供

３　取組推進のための事業、体制等のイメージ図

		取組内容		プランの目標
農林漁業体験学習推進支援への取組	→	あいち食農教育表彰 各種研修会での事例発表 各課・ＪＡからの情報提供	→	小学校での農林漁業体験学習取組率の向上（８０%以上）

農林水産業への理解と地産地消の推進への取組

農業水産局農政部農政課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年（2019）	現状 2020	現状 2021	現状 2022	目標（2025）
県等が実施するイベントや農林漁業体験の参加者数	14.6 万人	13.4 万人	13.6 万人	14.9※万人	18.5 万人以上

※2022 年度は推定値（とりまとめ中）

1　現状と課題

県民に農林水産業や農山漁村への理解を深めてもらうための手段の一つとして、花と緑のイベントや、試験場公開デー、出前授業など各種イベントや体験活動等を実施している。

コロナ禍で多くのイベント等で中止や縮小などの制限が行われてきたが、県等が実施する出前授業や各種イベントへより多くの県民が参加できるよう、アフターコロナを見据えたイベント数の増加や内容の充実を図ることが必要である。

2　主な取組

（1）2022 年度の取組実績とその「SHIN 化」

県等が実施するイベントや農林漁業体験に 14.9※万人が参加した。

ア　県が実施するイベントや農林漁業体験の参加者数　7.4 万人

農業総合試験場公開デー、花と緑のイベント、森林・林業技術センター公開デー、小中学生対象の森林づくりの体験活動、森と緑づくり体感ツアー、水産試験場公開デー、畜産フェスタ、畜産加工実習、出前授業等（水産・農業農村整備）

2022 畜産フェスタ

イ　県が把握する多様な主体によるイベント等への参加者数　7.5※万人

〇子供世代向け

小中学生を対象とした農林漁業体験、漁業者による出前授業への参加

〇大人世代向け

市民農園・農業体験農園・農業塾での農業体験、県民を対象とした森林・林業体験

きのこ生産者による菌打ち体験

【SHIN 化の内容】＝ 深化 ＝

新型コロナの影響により来場者数の制限や規模を縮小したイベントがあったため、計画を下回る結果となったが、感染症対策を徹底したことにより、イベントや農林漁業体験の参加者数は持ち直しつつある。

新型コロナの感染症法上の位置付けが５類感染症になり、県民も日常生活を取り戻しつつあることから、これまで制限してきたイベントの回数や内容をコロナ前に段階的に戻しつつ、継続した啓発による県民の理解促進を行う。

（2）2023 年度以降の取組（予定）

県民の本県農林水産業への関わりを深めるため、引き続きイベント等を開催していく。

3　取組推進のための事業、体制等のイメージ図

【農林水産業に係るイベント等の開催】
〇県が実施するイベント等
〇市町村・関係団体等が実施するイベント等

→ 農林漁業を応援・体験し参加する機会の提供

→ 農林水産業や農山漁村への理解を深める県民の増加

学校給食における地域の産物の活用に向けた取組

教育委員会事務局教育部保健体育課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年	現状			目標（2025）
		2020	2021	2022	
全食品数に占める県産食品数の割合	40.4%（2020）	－	38.2%	38.0%	45%以上
年間に使用した県産食品の種類	55 種類（2019）	57 種類	58種類	－	60 種類以上

1　現状と課題

全食品数に占める県産食品数の割合は、2022年は３８．０%と微減した。原因として、天候不順が第一に考えられる。一方で、年間に使用した県産食品の種類は、５８種類と増加している。2020 年から「国産農林水産物等販路新規開拓緊急対策事業」が行われており、その成果が表れてきていると思われる。

全食品数に占める県産食品数の割合

今後も、地域の産物を活用することが、児童・生徒の豊かな心を育み、環境にやさしい取組となることを、各学校へ働きかけていく。

2　主な取組

（１）2022 年度の取組実績とその「SHIN 化」

全市町村において、地場産物を活用した学校給食を提供する、「愛知を食べる学校給食の日」を年３回実施した。また、学校給食県産農産物使用促進に関する意見交換会等を、食育消費流通課とともに例年行っている。意見交換会では、地場産物を学校給食に使用するうえで、①使用量が確保できない、②規格サイズが合わない、③価格が高い・安定していない等、地場産物の供給体制に課題があることが明らかになった。

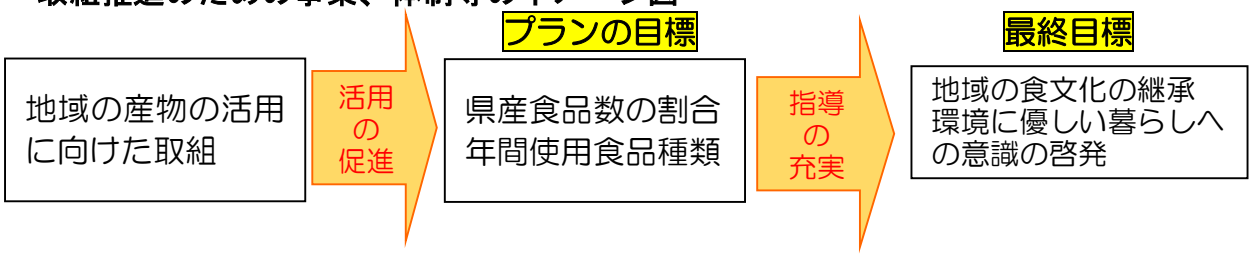
【SHIN 化の内容】＝ 伸化 ＝

これまでに引き続き「国産農林水産物等販路新規開拓緊急対策事業」を活用した、ニジマスの提供を学校給食で実施した。

（２）2023 年度以降の取組（予定）

○「愛知を食べる学校給食の日」の実施（年３回：６月、秋、１月）
○学校給食県産農産物使用促進に関する意見交換会等を、食育消費流通課とともに実施
○「国産農林水産物等販路新規開拓緊急対策事業」の実施

3　取組推進のための事業、体制等のイメージ図



地産地消の推進に向けた取組

農業水産局農政部食育消費流通課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年（2020）	現状（2021）	目標（2025）
県産農林水産物を優先して購入する県民の割合	15.4%	13.3%	25%以上
「いいともあいち運動」を知っている人の割合	22.7%	24.2%	28%以上

※2022 年度はデータなし

1　現状と課題

2021 年県政世論調査の結果では、「県産農林水産物を優先して購入する県民の割合」は 13.3%と前年の 15.4%を下回った。また、「『いいともあいち運動』を知っている人の割合」は 24.2%で、2015 年度以降、徐々に上昇しているものの、目標値である 28%以上には達していない。

2022 年度から、地産地消が SDGｓに貢献することを前面に押し出し、「地産地消あいち SDGs 推進キャンペーン」を行っているが、地産地消の実践を促すための取組を一層推進する必要がある。

2　主な取組

（１）2022 年度の取組実績とその「SHIN 化」

県民に地産地消と SDGｓとの関係をイメージしてもらえるよう、本県の環境活動のシンボル「モリゾー・キッコロ」をアンバサダーに任命した。また、豊田スタジアムで知事によるキックオフ宣言を行うとともに、WEB、SNS、マスメディアを使用した PR を行った。

キックオフイベントの開催

県産農林水産物を積極的に扱う「いいともあいち推進店」を巡る「地産地消あいちデジタルスタンプラリー」を 11 月から１月まで県内 156 店舗で実施し、延べ 3,000 人以上の参加を得て、県産農林水産物を PR し、見て、触れて、食べる機会を創出した。

【SHIN 化の内容】＝ 新化 ＝

地産地消は SDGｓの達成に貢献できるという観点を新たに加え、県民に地産地消の理解促進と実践を促した。

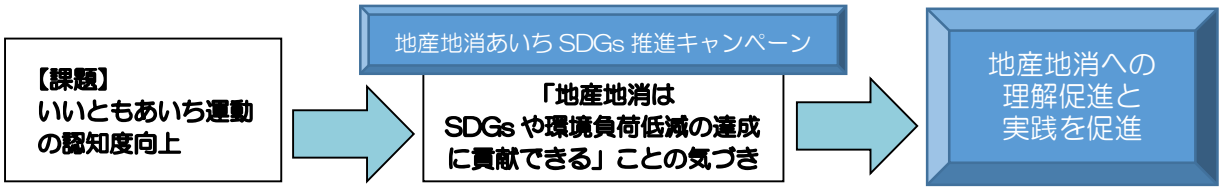
（２）2023 年度以降の取組（予定）

いいともあいち運動の認知度向上を図り、SDGｓを食の面から推進するため、県民が普段の生活の中で気軽に地産地消に取り組めるよう、「地産地消あいち SDGｓ推進キャンペーン」をより一層「進化」させていく。

2023年度は、若い世代に地産地消や SDGｓへの理解を深めてもらうため、デジタルプロモーション等の取組を行う。また、地産地消の実践をより促すため、デジタルスタンプラリーの取組を拡大し、より多くの県民が県産農林水産物に接し、継続的に購入できる機会を創出する。

3　取組推進のための事業、体制等のイメージ図

いいともあいち魅力向上推進事業　うち SDGs 貢献あいち地産地消推進事業



食育推進ボランティアの育成と活動の充実に向けた取組

農業水産局農政部食育消費流通課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2019)	現状 2020	現状 2021	現状 2022	目標 (2025)
食育推進ボランティアから食育を学んだ人数	11.1 万人	1.3 万人	2.7 万人	5.7 万人	12 万人以上/年間
食育推進ボランティアと学校・企業等との連携回数	227 回	138 回	287 回	289 回	240 回以上

1　現状と課題

「愛知県食育推進ボランティア（以下「食育ボランティア」という）」は、県民が健全な食生活を実践できるよう、県内各地域で様々な食育活動を行っており、2023 年３月末時点では、990 名が登録している。

2022 年度は、「第 17 回食育推進全国大会 in あいち」を開催したことを始め、対面でのイベントが復活しつつあり、食育ボランティアから学んだ人数が、前年度の約 2 倍と大幅な増加が見られた。また、食育ボランティアと学校・企業等の連携回数については、289 回となり、目標を達成することができた。

2　主な取組

（1）2022 年度の取組実績とその「SHIN 化」

「第 17 回食育推進全国大会 in あいち」のレガシーを継承して今後の愛知県の食育推進へ繋げていくため、大会で行った企画を発展させた、歯と栄養から食育について考えるシンポジウムや、学生レシピコンテストで最優秀賞及び優秀賞を受賞した学生を講師に迎えた調理講習会を行った。また、食育ボランティアの知識及び技術の向上を目指した研修交流会を実施した。

○「あいち食育いきいきシンポジウム」（58 名）
○「“SHIN 化” レシピ調理講習会」（24 名）
○「地域食育推進ボランティア研修交流会」（７カ所：191 名）

調理講習会の様子

【SHIN 化の内容】＝ 伸化・新化 ＝

企業や団体、学生と連携し、シンポジウムや調理講習会を実施した。また、その様子をオンライン配信し、より多くの人に情報を届けた。

（2）2023 年度以降の取組（予定）

愛知県の伝統野菜を活かした、地産地消、食文化保護・継承、和食などテーマにしたシンポジウムと調理講習会を開催し、健全で豊かな食生活に対する意識向上と実践力を高める。

3　取組推進のための事業、体制等のイメージ図

【ボランティアに対し】
・シンポジウムの開催
・調理講習会の実施
・研修交流会の実施

→ **ボランティアの資質向上**

→ **企業・団体・学校と連携したボランティア活動**

→ ＜ 目標 ＞ **県民の「食育の実践力」の向上**
・健全な食生活
・心身ともに豊かな暮らし